

「オーロラブラック」の 品質向上のための果房管理方法

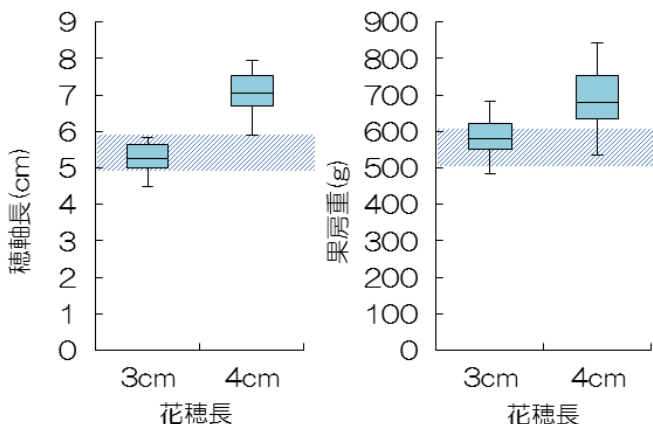


図1 花穂整形時の花穂長が「オーロラブラック」の満開10日後の穂軸長（左）及び収穫時の果房重（右）に及ぼす影響
花穂整形は満開7日前に行った
箱の範囲は25～75%タイル値、箱内部水平線は中央値、箱上下のひげは、箱の長さの1.5倍以内の最大・最小値
グラフ内の網掛は適正な範囲を示す

表1 摘粒時に調整した穂軸長が「オーロラブラック」の果実品質に及ぼす影響

処理区	果房重 (g)	500～600gの果房割合 (%)	果粒重 (g)	糖度 (° Brix)	果皮色 (C.C.)
5cm	560 b	67 a	21.0 ab	16.9	7.4
6cm	635 a	33 ab	22.9 a	16.7	7.2
7cm	642 a	10 b	20.0 b	17.2	7.3
有意性 ²	*	*	*	ns	ns

²500～600gの果房の割合はBonferroniの母比率の検定、その他はTukey法により**は1%水準、*は5%水準で処理区間に有意差あり、nsは有意差なし
穂軸長の調整は満開9日後に行った

開発のねらい

「オーロラブラック」は、果粒が大きいため大房になりやすく、着色不良等の品質低下を招く恐れがあります。そこで、生産目標である500～600gの果房を生産するための、適正な果房管理方法を明らかにしました。

新技術の概要

- 花穂整形時の花穂長は3cmが適しています。4cmとしたときは満開10日後の穂軸長、収穫時の果房重とも、適正範囲をはずれるものが多くなります（図1）。
- 摘粒時の穂軸長は5cmが適しています。適正な重さ（500～600g）の果房の割合は、5cm区が67%であるのに対して、7cm区では10%に低下します（表1）。
- 糖度及び果皮色は処理区間に大差はないのですが、果粒重は、5cm区、6cm区は7cm区より大きい傾向です（表1）。
- 平均果粒重が20～22gの場合、摘粒後に26～28粒程度の果粒を残すと、概ね生産目標となる500～600gの果房重に収まります。

活用場面

「オーロラブラック」の大粒で着色が良いという特長を活かした高品質な果実生産が可能となります。